



# シーニックバイウェイ北海道 全道フォーラム2012 開催概要

## ■ 第2部 テーブル・セッション(交流)

各12ルートテーブルでは、活動紹介のパネルやチラシ等が置かれ、活動団間、参加者の方々との情報交換・交流が行われました。また、レポーターが12ルートのテーブルを周り、ルートの方々が活動をPR!参加者の方々から激励や連携のコメントもありました。



支笏洞爺ニセコルート



東オホーツクシーニックバイウェイ



宗谷シーニックバイウェイ



北海道商工会議所連合会 平野部長



釧路湿原・阿寒・摩周  
シーニックバイウェイ



函館・大沼・噴火湾ルート

**国土交通省 道路環境対策室 森本室長**  
北海道では、道の駅や企業など多様な連携をしているので、全国的にも進めていきたいです。様々なプロジェクトも立ち上がっているの、そういう方々との連携や意見交換なども今後進められればと考えています。



萌える天北オロロンルート



トヨタレンタリース札幌



北陸地方整備局 水元係長



大雪・富良野ルート



十勝シーニックバイウェイ  
十勝平野・山麓ルート



十勝シーニックバイウェイ  
トカプチ雄大空間



十勝シーニックバイウェイ  
南十勝夢街道



札幌シーニックバイウェイ  
藻岩山麓・定山溪ルート



どうなん・追分  
シーニックバイウェイルート



国土交通省道路局 環境安全課  
道路環境調査室 森本室長



シーニックバイウェイ北海道  
推進協議会 高向会長

各ルート自慢のお菓子や物産などの試食で盛り上がりました。また、特に各ルートが苦労して作成したルートマップが多数紹介されました。



# シーニックバイウェイ北海道 全道フォーラム2012 開催概要

## 民間企業等との連携に関する包括連携協定調印式



**シーニックバイウェイ北海道  
推進協議会 会長  
(社)北海道商工会議所連合会**

たかむき いわお  
**会頭 高向 巖**



今日は、協定締結ということでゲストにお越し頂いております。本当にありがとうございます。この協定が更に我々の活動を広げていくことを期待しております。そしてシーニックバイウェイを広げていくことによって、外から来るお客様のためにも非常に役立つ、これがますます現実に広がっていくと思います。

来年は第一次ベビーブームから65年で、その人達が引退しますから旅行が増えると思っております。また、3年後には新幹線が函館に入るので、そこからレンタカーに乗って観光客が道内に広がります。北海道には素晴らしい観光地がたくさんありますので、シーニックバイウェイの利用者が増えるはずで、我々の努力が、来年、3年後、大きく花開きますことを期待したいと思います。

### 【包括協定企業】

- ・株式会社トヨタレンタリース札幌
- ・株式会社グランビスタホテル&リゾート  
札幌グランドホテル
- ・Follow Me Japan Pte.Ltd.
- ・北海道コカ・コーラボトリング株式会社



**(株)トヨタ  
レンタリース札幌  
代表取締役社長  
あいちゃんぞう  
相茶 省三 氏**



本日のシーニックバイウェイ北海道様との包括協定調印式では、協定相手の民間企業として御承諾いただきましたことに感謝を申し上げますとともに、この名誉を汚すことのないよう、社員ともに努めてまいり所存であります。誠にありがとうございました。

弊社では、国内の魅力のある地域として北海道がお客様から選ばれ、国内外から多くの方に足を運んでいただくために、皆様と一緒に北海道のディスティネーションマーケティングに心血を注いでまいり所存です。



**Follow Me Japan  
Pte.Ltd.  
会長  
にしむら こういち  
西村 紘一 氏**



ようやくこういう瞬間が来たのかと、今、この式典を見て感じました。2005年6月に初めてシンガポールからチャーター機を持ってきて今日に至ります。このように素晴らしいつながり、シーニックバイウェイ、道を通じて10年間、これを優しく育ててきた、皆をつなげてきた、こういう活動は他にはないと思います。

シーニックバイウェイは、皆さんが心を持って続けてきた結集です。あれから数年、ようやく僕も認められたと思いました。ありがとうございます。



**(株)グランビスタ  
ホテル&リゾート  
札幌グランドホテル  
総支配人  
あきつき せいじ  
秋月 清二 氏**



北海道初の本格洋式ホテルとして昭和9年に開業し、本年当月で78年を迎えることになりました。

このたびのシーニックバイウェイ北海道様、各ルートの皆様との連携につきましては、私どもも大いに期待しているところです。まだまだ知られていない北海道の良さ、貴重な食材をこれからも多くの方にご提供し、喜んでいただくことが私どもの役割ととらえております。それが北海道の観光振興に少しでも役立てればと願いを込めまして挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



**北海道コカ・コーラ  
ボトリング(株)  
広報・CSR推進部  
執行役員  
うえしま しんいち  
上島 信一 氏**



2007年に新千歳空港の当社自動販売機モニターでPR映像を流すことから始まり、今は、サントスコーヒーを通して応援をさせてもらっています。

北海道が元気になるためには交流人口を増やしていくことが大事なキーワードで、それに大きく関わるのは道であり、シーニックバイウェイ北海道の取り組みが大変重要な意味を持つものだと思っています。

一緒に北海道の元気を応援して、皆様からほめていただけるような北海道になればと思っています。今日は本当にありがとうございました。



# シーニックバイウェイ北海道 全道フォーラム2012 開催概要

## ■ 第3部 トークセッション/テーマ:守りたいもの、壊すもの、創るもの



はしもと こう  
橋本 幸氏 / コーディネーター  
北海道開発局 道路計画課 道路企画官

2005年に制度設計をして以来、基本方針、目標や枠組み等は堅持してきているが、一方で外的な状況は変わってきている。

今日は、制度設計に携わった3人に今後のシーニックについて未来志向で大胆に議論していただきたい。

参加の皆さんからもシーニックバイウェイ北海道の「守りたいもの」、「壊したいもの」、「創りたいもの」についてお聞きして、今後の我々の財産にしたい。



キングギドラ対談!



筑波大学  
教授 石田 東生氏

### ● 守りたいもの

シーニックのシンボルは風景・景色。それは人々の暮らし、元気、気持ち、まちの活発さ、産業、きれいな森、水などが景色や風景を構成している。それをぜひ守りたい。

### ● 壊すもの

道外への進出、トップランナーとしての自覚、定型的パターンに打ちかかっていることへの危機感等、シーニックの固定観念は常に壊すことを意識していかない限り、なかなか進展していかない。

### ● 創るもの

・ 今後を考えると若い人を是非仲間に入れたい。シーニックは想いが支えている活動なので、それを活かすためにも行政のあり方、支え合う視点や協働のあり方、活動がビジネスにつながるようにする事が必要。  
・ シーニックバイウェイ北海道と各ルートというブランドの確立を目指して皆で頑張っていければと思う。

### ● 最後に...

道は人が往来して気持ちが通って、情報やお金などモノが行き来するもの。そういう力をどう具体的にいかか問われており、それは地域でその道に向かい合っていく人々の思いからしか生まれてこない。想いを形にしていく技と体制を地域、企業、学校、行政と一緒に進めていくことが本当に大事なことだと思っている。

何を守る!?

SAVE!!

- 美しく元気な日本とそれを構成する様々な故郷・田舎
- 人々の元気・活気・愛着・誇り
- 人のつながり
- ようやく育ってきたビジネス・活動



北海道開発局 道路計画課  
課長 和泉 晶裕氏

### ● 守りたいもの

常に「楽しんで活動できているか」というセルフチェックをしながら、どう続けていくかが一番大切だと思っている。また、「会う機会」を多くつくり、相互理解が進むシステムは守っていききたい。

### ● 壊すもの

・ 社会は常に変化しているので、現状に安住せず、変化への恐れや安心感、形骸化、前例主義などは常に壊していきたいし、きちんと考えたい。  
・ 相互理解を促し、新しい発想が生まれることで次のステップに進むので、「批判、排除、縄張り」を壊していきたい。

### ● 創るもの

次の10年に向けて、シーニックバイウェイの基本となる「景観」を良くしていく取り組み、例えば、地域の方々と協働して道路のマネジメントを行う仕組みを今後、新たに作っていききたい。

### ● 最後に...

シーニックにも多くの方々に関わってもらえるようになり、可能性は無限に近いくらいにあると実感した。もっともっと可能性を引き出すのに皆さんとこれからも会って、話をして、というスタイルは、必ず守って続けていきたい。

何を守る!?

SAVE!!

- 「Are you having fun?」  
※SWWを軸とした新たな仕組みづくり (楽しくする工夫)  
※北海道フォーラムの開催が、各道単位、交流の場の創出、新しい取組 (シーニック・カフェ、ワークショップ等)
- 「会う (話す、食べる、飲む) 機会」  
代表者会議のみならず、参加者同士の会話が中心 (当該のWSイメージ)  
【顔の見えない関係】づくりはSWW生命線。会って話してお互いを理解。
- 住民参加型から行政参加型への活動  
【顔の見えない関係】づくりはSWW生命線。会って話してお互いを理解。
- 機会均等と差別化 (手あけ方式)
- ルートコーディネーターと支援センター
- 「探求」と「挑戦」
- 北海道開発局の「技術力」「人材」



# シーニックバイウェイ北海道 全道フォーラム2012 開催概要

## 第3部 トークセッション



(一社)SBW支援センター  
はら ふみひろ  
業務執行理事 原文宏氏

### ●守りたいもの

- ・10年間、皆でやってきた重みはすごく貴重で自分自身にとって宝物のようなもの。大事にしていきたい。できれば50年、100年続いてシーニックバイウェイが一つの文化になっていくようになるといい。
- ・シーニックは色々な業界をまたいだ活動なので、中間的支援を支援センターやルートコーディネーターが担っている。このような、広域で中間支援的な機能と人を守りたい。

### ●壊すもの

シーニックは、とても多様な事業のプラットフォーム的な存在であるが、観光、景観、地域づくりなど、分野ごとに独立している感がある。これらの分野別の垣根を壊し、プラットフォーム上で、有機的な連携や、循環する動きを活発化したい。

### ●創るもの

- ・シーニックの活動は自分も含め新しい人へ継承して行ってほしい。そのために継承しやすい環境をつくる必要があると思う。
- ・シーニックは、景観、観光、地域づくりを柱として活動しているが、最終的な目標は、交流人口の増大、雇用機会の創出、地域振興である。このことを忘れずに、各活動をとおして最終目標に至る仕組みを、民間企業との連携もふくめて創っていきたい。

### ●最後に...

若い人達にどんどん参加してもらいたい。そして、シーニックの中での役割の世代交代の中で、自分の立ち位置も変わってくると思うが、次の10年も、一生、シーニックを続ける覚悟で臨みたい。

何を守る!?

SAVE!!

- 北海道への愛着、思い。  
道内に住んだ大きな自然の一つは、自然環境を守り、伝統文化、子育て世代の人達、経済的発展、「高学歴、高収入、高所得」という風潮、お荷物な古い一帯への投資、その際にあるのは北海道への愛着。
- 「INO」と言わない。  
INOの発音は、道庁の職員、自治体の職員、各業界の職員、道民の職員などから聞いたことのある発音。INOと聞かずに、道庁の職員から聞いたことのある発音で聞かされたこと、その中で「INO」と聞かずに聞かされたこと、道庁の職員から聞いたこと、その中で「INO」と聞かずに聞かされたこと、道庁の職員から聞いたこと、その中で「INO」と聞かずに聞かされたこと。
- 過去のSBW活動の積み重ねの歴史(文化)  
過去の10年間の、SBW活動を続けてきたことの上に、新しい道程があるはず。過去のSBW活動を積み重ねてきたこと、その中で「INO」と聞かずに聞かされたこと、道庁の職員から聞いたこと、その中で「INO」と聞かずに聞かされたこと、道庁の職員から聞いたこと、その中で「INO」と聞かずに聞かされたこと。
- SBW支援センターやルートコーディネーター  
中間支援は、今後の北海道に必要に過ぎない機能で、その意味でも支援センターやルートコーディネーターの確保は維持したい。その意味でも支援センターやルートコーディネーターの確保は維持したい。



ルート審査委員長  
こばやし ひでつぐ  
小林 英嗣 氏

- シーニックの活動コミュニティを核にして、河川、公園、道路などの資源ストックの利活用の社会実験をどんどん連携させる事こそ、北海道らしい風景価値を体感し、感動の発見になる。
- イタリアでは小規模の街が自分たちの文化を守りプライドを持ってやっている。シーニックでは地域に関わる活動を支援しつつ、地域人の地域プライドを醸成することが大事。
- グロー・ナ・カルという言葉を使いたい。ローカル+ナショナル+グローバルへの視点をいつも意識しながら連携させ、地域資源を多様に活用し、世界・日本へダイレクトに発信していくべき。
- 子育てが一段落したお金に余裕のある世代を引退させるのではなく、地域に戻す仕組みを考えるべき。



ルート審査委員  
たかの しんせい  
高野 伸栄 氏

- シーニックバイウェイの知名度を上げるためには、シーニックバイウェイとは「これ」というものを見せることが必要。
- 一般の人の行政に対するイメージを変えていかなければならない。行政も汗をかきながら地域の人と一緒に活動しているので、行政の事業も面白いよという感覚を作っていく努力が必要。それが次の何年か先に出てくると思う。



ルート審査委員  
うすい じゅんこ  
白井 純子 氏

- 地域の壁、世代の壁、活動の壁、色々な意味でのバリアがすごく増えているような気がする。活動団体と地域間にも壁ができていなので、先入観と思いこみの結果だと思うが、それを壊したい。
- 地域を活かす、自立してお金を稼げるようにするためには、地域プロデューサーのような新しい職業が必要。抽象論で終わらないように今後の5年間は具体的な目標を掲げていこうと思います。